

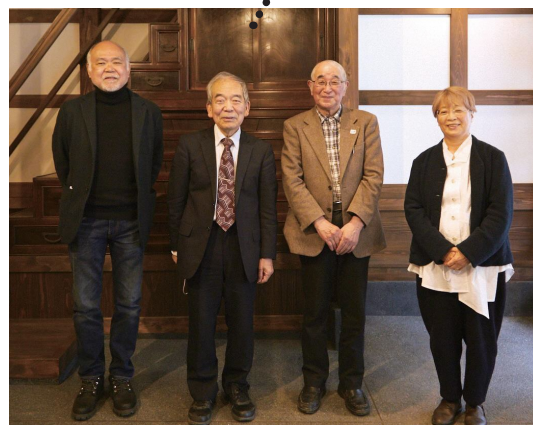
# 織りなす川越

—モノ・マチ・ヒト—

希少な産業遺構であり、今後、創作活動や定期市、ワークショップなどを開催するための“文化創造インキュベーション施設”として生まれ変わる旧川越織物市場。施設の保存と活用という両立の観点から、専門家の方々に建物の保存整備工事の様子を見ていただく見学会を開催。その後、建物の魅力や今後の在り方、若い世代へのアプローチ方法などをお話いただきました。



## 見学会・座談会に参加された方々



(写真左から)

- 羽生修二さん  
(川越市文化財保護審議会委員)
- 山野清二郎さん  
(川越市文化財保護審議会会長)
- 馬場 弘さん  
(川越市文化財保護審議会委員)
- 草野律子さん  
(川越市建築審査会元委員)



## 見学会の様子

旧川越織物市場東棟・西棟などの整備工事の進捗状況を見学。基礎の確認や木材の加工状況、古色塗について、工事担当者から説明を受けました。



## 保存整備工事中の旧川越織物市場の MAP





## 旧川越織物市場を 次世代を魅了する 新たなスポットに

### 旧川越織物市場の整備工事と 現地見学の感想

**羽生さん** 今日には主に古い部材がどのように保存されているか、一つ一つの補修・補強など、どのように修復されているのかを中心にを見せてもらいました。感想としてはとても丁寧な作業をされていて安心しました。今は下準備として、補強などをきちんとされていますが、実際に組み立てていくと、また作業的に難しい部分も出てくるのだらうと思います。

**草野さん** 思い描いていたとおりの現場でした。古い材と新しい材のマッチング。非常に細部に渡り丁寧な工事をされていたので私もとても安心しました。

**山野さん** そうですね。工事が順調に進んでいる点については期待していきたいですね。この先の話ですが、周辺に建物が密集しているので樹木などを取り入れて織物市場が周囲とうまく馴染むといいなと思いつつ見学していました。



**馬場さん** たしかにそうですね。また、羽生先生がおっしゃるように進めていくと難しいことが出てくるとは思いますが、基本設計でのプランが変わることなく進行できれば、非常に面白いものになると思います。

**羽生さん** 当初の材料をできるだけ残して、同じような技術で復原するという、文化財の保存の基本的な原則に基づいて作業されていることは重要です。実際に活用するときにはその価値を損なわない形でよみがえってくれることが理想です。

**草野さん** トイレや倉庫などの新築部分ですね。使いやすさと古い建物との調和。使用する人たちが気兼ねなく使えることも大切かなと思います。



### 旧川越織物市場に持つ 創業支援施設としての期待

**羽生さん** 私は建物そのものの新旧の調和だけでなく、この施設が町に古くから住んでいる方と新たに川越にやってくる方の交流の場として、伝統と現代をつなげることに一役買ってくれることを期待しています。

**草野さん** 以前、織物市場をアートイベントや展示の場として使わせていただきました。一般的な古民家にはない細かく仕切られた造りを活かして使いましたが、復原後にはその細かく仕切られた部屋（ブース）に工芸などの工房が入るとのこと。これは空間の新しい価値になると思います。

**山野さん** いろいろなところから作家を募って入っていただくのはいいと思いますが、町や町の人と馴染めるかがカギですね。作家たちは黙々と作業するだけでなく、周辺の住民の方ともかかわりを持っていただきたいですね。

**馬場さん** そうしたときには、川越に今住んでいる人たちがどうやって作家たちと接していくかも重要になります。

**草野さん** お祭りとか？ 私のところの町内はお祭りに参加していただきたいですよ。

**馬場さん** そうですね。細かいことは言わずに、お祭りなどで交流ができるといいと私も思います。

**草野さん** また、作家たちが魅力的だと感じてくれるような創作に適した設備を設けることもポイントですね。

### 旧川越織物市場の魅力と これからの子どもたちとのかかわり

**山野さん** 川越は文化財に恵まれているの

ですが、教育の場でそのことがあまり知らされていないのが現状です。織物市場は中央に安全な空間ができます。ここは小中学生を案内して文化財の話をするのにぴったりの環境です。観光だけでなく、地元の子どもたちにも利用してほしいですね。

**馬場さん** 夏休みや市民の日に何かを企画して小中学生に知ってもらう努力が必要です。次代を背負うのは若い世代。そういう世代にアピールしないと。今、氷川神社が改修されていますが、どんぐりを配って苗を育て、森を作ろうという計画を2年ほどかけて子どもを交えてやっています。長いスパンで考えるそういった面白い発想が必要です。

**草野さん** 私もNPOの活動で2012年くらいから5～6年に渡ってクラフト市を織物市場でやり、そのときに子どもを集めてワークショップを開催しました。お子さんが文化財を感じながら作家と作業ができる体験ができて、非常に好評でした。



**羽生さん** 子どもたちの授業でスケッチを屋外で描くことがあると思いますが、織物市場は広いですし、絵を描く場としてとてもいいと思います。フランスなどでも修道院の絵を子どもたちが描いているのを目にします。そのときには先生が歴史的な説明などをして、そのあとに子どもたちは好きな場所で絵を描き始めます。

**山野さん** 先生たちにも文化財を勉強してもらって。



**羽生さん** そうですね。絵を描きながら建物の価値や意味がわかれば、将来そこで何かをしてみたいという気持ちが起こるのではないのでしょうか。織物市場は入口が狭いこともあり、中に入ると別世界のような空間だと初めて調査したときに感じました。その特徴を活かして演出ができると若い人にもすぐくうけそうです。新しい川越の人気スポットになる可能性があるのも、それがとても楽しみです。

